

平成26年度第1回徳島市行財政力強化市民会議

会議録（要約）

平成26年9月24日（水）午前11時から正午まで
徳島市役所 13階 第一研修室

1 開会

2 委員紹介・委嘱状交付

（事務局）

名簿順に委員を紹介し、委嘱状を交付。

3 市長あいさつ

皆さま、こんにちは。徳島市長の原秀樹でございます。

本日は、お忙しい中、第1回行財政力強化市民会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。

また、このたびは、快く行財政力強化市民会議の委員の就任をご承諾くださいましたことに対しまして、厚くお礼申し上げます。

本市ではこれまで、危機的な財政状況を早期に克服するため、2期8年にわたり、行財政の健全化に全庁を挙げて取り組んだ結果、懸念された財政再建準用団体への転落は回避でき、本市の将来像「心おどる水都・とくしま」実現に向けた行財政基盤の強化を図るなど、一定の成果を上げることができました。

しかしながら、一方で、人口減少や少子高齢化の進行、防災対策等の推進など、本市を取り巻く環境は大きく変化しており、これまで以上に、このような環境変化に、迅速かつ的確に対応していかなければなりません。

そのため、これまでの健全化の取組みだけでなく、将来を見据えた次のステージへと進んでいくために、この4月に策定しました「徳島市行財政力強化プラン 2014」に基づき、本市の「行財政力」の強化に取り組んでおりますが、この強化プランの実効性を一層高めるために、委員の皆さまの幅広い見地から、ご意見をいただき、本市の取組みに反映していく必要があると考えておりますので、各委員の皆さま方のご協力をお願い申し上げまして、私のごあいさつといたします。どうぞよろしく願いいたします。

4 事務局紹介

(事務局)

市(事務局)出席者を紹介。

5 徳島市行財政力強化市民会議について

(事務局)

冊子を用いて説明。

6 会長選出

徳島市行財政力強化市民会議設置要綱第4条第2項の規定に基づき、委員の互選により、会長は中村昌宏委員に決定。

7 会長あいさつ

(委員)

ただいま、会長に御推挙いただきました、徳島文理大学の中村でございます。皆さんのまとめ役として、大役ではありますが、市民会議の会長を引き受けさせていただくことといたします。

先ほど、市長からのごあいさつの中にもありましたように、この市民会議は、徳島市の行財政力の強化に向けた取組みについて、広く意見や提言をしていく重要な役割を担っておりますので、皆さんの御協力をいただきながら、市民の代表として議論を尽くしてまいりたいと考えております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

8 副会長指名・副会長あいさつ

設置要綱第4条4項の規定に基づき、中村会長が、疋田光伯委員を指名。

(委員)

ただいま、副会長の指名をいただきました四国大学の疋田でございます。

微力ではございますが、中村会長を補佐し、市民会議の円滑な運営に全力を尽くしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

9 徳島市行財政力強化プラン2014について

(事務局)

【資料】により概要説明。

(委員)

ただいまの説明について、何か御意見、御質問はございませんか。

(委員)

職員力・組織力の強化は特に重要であると思います。

職員の皆さんには、業務において高いレベルの目標を掲げて達成してもらいたいと思います。業務上の細かい部分でも結構ですので、業務上の課題を解決する成功体験を積み重ねていくことや、そのような職場環境を生み出す管理職のマネジメント能力も大切だと思います。

(事務局)

これまでも行財政健全化を進めていくなかで、職員の意識改革を行うなど様々な取組みを行ってまいりました。ただ、新たな次のステージへ進むためには、これまでの健全化の取組みだけではなく、意識改革から行動を変えていくという行動変革を今回の計画の中に取り入れており、その中で全体的な職員のレベルアップを進めていこうと考えております。

(委員)

職員配置の適正化についてですが、類似団体と比べると、徳島市はまだ職員数を減らせると思うので、職員の配置転換をまずはよく考えて対応してほしいと思います。

また、財源を増やすことも大事だと思うので、財源を増やすためには、税収を上げることや、企業の誘致を含めて総合的に考えてほしいと思います。

(委員)

一般企業では、単能工から多能工へと、何でもできるという能力のある人が、配置転換をやりやすくしています。職員の配置転換を行うには、様々な能力のある人がいれば、配置転換を行いやすいですが、一つしか仕事が出来ない人が多いと、配置転換は難しくなります。

また、財源については、地域産業の発展には、企業誘致・地場産業の振興などがありますが、今まで忘れられていることは既存の企業の活性化です。既存の企業にカンフル剤を打つような施策があれば、財源がかなり豊かになると思います。

(委員)

職員力・組織力を強化させるためには、現場の人のモチベーションをいかに向上させることができるか、そのシステムの構築が一番の鍵だと思います。

(委員)

委員が仰ったとおり、成功体験の共有も一つのモチベーションになると思います。

選ばれる自治体という言葉もありますが、何か強みを発揮して自信を持ち、ポジティブな意識を持つことが大切だと思います。徳島市や徳島県は、低いランキングでまたかといった負け組の意識が強すぎるので、新しいステージへと向かうためには、積極的にプラスに打って出るということも大切だと思います。

(委員)

主婦の立場から話させていただきますが、職員の方々は責任やプライドを持って仕事をしていると思います。諸手当は見直しても、給料は労働に対する賃金なので、これ以上給与カットはしてほしくありません。

(委員)

ダイナミックに世の中が改変されていくことに、スピーディーに対応できる強化プランの実践ということで、強化プランは4年間の計画ですが、1年ごとにプライオリティをつけて、取組みを実践していくということが必要だと思います。

また、徳島県民が60数万人になるということが目に見えており、都市機能を有する徳島市の立ち位置が人口減少社会の中で問題になってくると思うので、この会議でしっかり議論する必要があると思います。

(委員)

NHKの大河ドラマ「軍師官兵衛」において、黒田官兵衛の嫡子長政と蜂須賀正勝の娘糸は姻戚を結んでおり、糸のお墓が徳島にありますが、世間には知られていないと思います。もう少し観光に力を入れて、このような情報発信を行っていただきたいと思います。

(委員)

私が住んでいる町内会の防災組織は頑張っているんですけど、最近モチベーションが下がり気味です。なぜなら町内会で頑張っても、どれだけ市が協力してくれるか不明であり、今は町内会だけで頑張っていて、市から切り離されているように思います。地域でやってることが、市でこれだけ役に立っていると数値化にしていただけると、モチベーションが上がると思います。基本的な方針にある「市民とのパートナーシップのさらなる推進」において、取り組んでいただけたらと思います。

10 その他

(委員)

次第10にその他とありますので、その他も含めて幅広い観点から議論をしていただければと思います。何か御意見ありませんか。

(委員)

私から3点意見がございます。

まず、拠点都市の創造とありますが、残念ながら将来予測として人口減少があり、徳島市は拠点都市として形成することは非常に難しいと想定されます。そこで、どうやって人口減少を食い止めていくのかということを中心に議論しなければ、税収確保も難しいと思います。

次に、財政支出の大きな面として、保険料等の支出が多くなると予想されます。平均寿命は上がっていますが、健康寿命は低いままですので、改善するためには、市民の健康寿命を延ばすことが重要だと思います。

最後に、職員のスキルアップについてですが、職員の方は異動があるので、引継ぎしてもなかなかスキルは溜まっていかないと思います。スキルを蓄積できる案を作っていかなければならないと思います。

また、都市の課題は複雑になってきており、職員の経験だけで対応することは難しくなっていると思います。そこで、大学との連携など、専門家を有効に使うことが大切だと思います。また連携の仕方も、大学等に業務を一方的に任せず、職員と一緒に研究して、スキルを持って帰れる体制を構築することが重要だと思います。それが蓄積されることにより、シンクタンク機能が市の中に育っていくと思います。

(委員)

健康寿命は、平均寿命より男女とも10年以上ギャップがあります。健康寿命を延ばすことができれば、徳島市の社会保障関係や福祉関係の予算をかなり削減できるので、「健康が市民にとっての最大の社会貢献である」という認識を持つことが大切だと思います。市民の中で、健康で自立して生きていくという認識が浸透すれば、財政的にもプラスになると思います。

また、専門機関との連携についてですが、収益を上げている企業は、外部パワーをフルに活用しているという共通点があるので、徳島市も参考にしていきたいと思います。

(委員)

徳島県のこども未来課では、少子化対策を進めています。子どもが減る理由は、若者で結婚していない人が多いからです。大きな理由としては、出会いの場が無いことです。徳島県は昨年婚活に力を入れて、出会いの場を設けています。子どもを増やすためには、若者に結婚してもらわなければいけないと思います。

(委員)

取組項目17では、子ども・子育て委員会等が中心となり、徳島市が子育てをしやすい地域づくりに向けて頑張っています。

また、少子高齢化とありますが、少子と高齢は分けるべきだと思います。少子は危機ですが、高齢は健康な高齢者が増えればプラス要因になります。高齢についての対策は色々あります。高齢も寝たきりや病気、認知症等になれば医療経費が増えるため問題になりますが、みんな元気で社会貢献すればプラスになると思います。

(委員)

昔は、地域の問題は地域で解決する術を持っていましたが、核家族化を含め、地域の問題を地域で解決できなくなってきています。すべて行政が行うべきだという考え方で長い間推移してきていますが、もう一度自分たちでやれるなら自分たちでやろうといった意識を持つことが必要だと思います。限りなく税収入が増えるということは考えられないので、このような考えに対して、行政も背中を押し、市民も背中を押しすることで、共助の地域社会づくりを考えていく必要があると思います。

(委員)

人口を増やすためには働き口を増やす必要があると思います。働き口が少なければ、結婚が出来ないことにもつながります。

円高によって日本の企業は外国へと進出しましたが、現在は円安になっています。そこで、職員の方に頑張ってもらって、企業を誘致してほしい。企業を誘致することで、働き口を増やす。そうすれば結婚も出来る。人口増加につながる。しかし、働き口が無ければ、先行きが不安であり、結婚もできません。円安を利用することは重要だと思います。

また、付加価値の高い物を生産する企業を誘致してほしい。価値の高い物を作ると利益も上がり、給料も良くなるので、人口増加につながると思います。

(委員)

フラッシュバックと言う発想が大切だと思います。例えば、10年先、20年先のビジョンを描いて、そのビジョンのためには、今何をすべきかと考えたとき、政策や目標数値も変わると思います。ただ漠然と頑張っていくのではなく、明確に拠点都市としてこれだけの力をつけていこうといった考えに基づいて、今何をすべきかということ逆算して考えることが必要な時代になってくると思います。

地域間競争が激しい中では、それだけインパクトの強い政策が必要になると思います。神山町では、NPO法人グリーンバレーの理事長が、こうした行動指針のもと成功しています。

(委員)

従来型の企業誘致では機能しないと思います。企業を誘致しても、魅力の無い都市になれば撤退していきます。そこで、従来型の誘致ではなく、内側から産業を育てていくことが大事だと思います。徳島でしかできないことや、徳島で育てた経営者を作り、どう支援していくかということに力を入れていくことが効果的で、外から企業を誘致することは、長い視点で見ると良くないと思います。

また、魅力ある都市や安心して住める街にしないと居住者は増えないので、例えば津波がある町などはどのような対策をしていくのかといったことを考えることが大事だと思います。

(委員)

従来型の企業誘致ではなく、受け入れ態勢を充実することも大切です。本社が来るなら、どういった条件を希望するのか。進学率が抜群に良い高校、クラシックやオペラが聴ける音楽ホールなどの設備がどれだけ整っているかということ希望しているアンケート結果もあります。新しい発想で都市づくりをしていくべきだと思います。

11 閉会

(委員)

色々な各界の方から御意見があり、大変参考になりました。このような御意見を形にしていくことが重要です。

少子高齢化の少子については、いかに食い止めていくのか。みなさんの御意見を参考にして、今後色々なことを考えていきたいと思います。

(委員)

自治体や企業の戦略において、SWOT分析といった考えがあります。強みのストロング、弱点のウィーク、環境における順風のオポチュニティ、環境における脅威のスレット。弱点の是正はこれまでの健全化の取組みでやってきましたが、今度は順風を自分の風として、長所を自分の強みとして発揮し、選ばれる都市を目指したいと思います。

明治の初めの頃ですが、海上交通の時は、徳島は四国でもトップクラスでした。宇高連絡船が通るようになってからは、高松が中心となり徳島は発展から取り残されました。

今、高速道路の時代になり、四国の頂点は鳴門になりました。鳴門から高松へは下りになります。すべての中心の上座にあるのが鳴門であり徳島です。綱引きで言うと今は引く時代。そのことに自信を持って力をつけて、本当の拠点都市を目指しませんか。そのために、委員のみなさまには、さらにパワフルな発想のもとに、御意見をいただきたいと期待しまして、今日は終わります。みなさまどうもありがとうございました。

(事務局)

次回の会議開催につきましては、平成27年3月下旬頃に、強化プランの今年度の取組実績等につきまして御報告する予定としております。

各委員の御都合を調整いたしまして、中村会長と協議した上で、開催日を決定させていただきたいと思っております。委員の皆さま、どうもありがとうございました。